

【授業科目】病態解析診断学 II Laboratory Medicine II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口央輝、高崎昭彦、森 啓至、小菅優子、榎本喜彦、澤田浩秀、鈴木真紀子	3年次後期	必修	1	15	講義	なし	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／病態解析診断学IIでは疾病の原因・症候と検査診断学を教授する。臨床病態学I, IIの知識を横断的に結びつけるために、臨床検査データを含めた症例を提示し、その症例における病態を推察することを実践する。各種検査データから患者の病態を把握、評価することにより、適切な検査データを提供することにより医療チームの意一員として臨床に対して支援する能力を養うことを目的とする。実際には、検査所見の異常から病態および疾患を推定できること、検査所見の異常値について意味すること、さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができることが必要となる。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された課題・レポートにはコメントする事でフィードバックを行う。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 検査所見の異常から病態および疾患を推定できる。 ② 検査所見の異常値について意味すること、対応すべきことが理解できる。 ③ さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができる。 ④ 発表することにより、プレゼンテーション能力を養うことができる。 							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>本演習は、臨床病態学IおよびIIで履修した内容を応用し理解を深めるものであり、症例から病態を把握するためには、これらの履修内容を十分理解していなければならない。</p> <p>これまで授業で与えられた教科書、プリントだけではなく、図書館蔵書などを利用して十分な調査をすることが必要である。(60分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第01回 症例検討～生化学検査データから病態を読み解く(高崎)</p> <p>第02回 症例検討～血液検査データ(造血器腫瘍を中心として)から病態を読み解く(鈴木)</p> <p>第03回 微生物検査データから病態を読み解く(森)</p> <p>第04回 症例検討～一般検査データから病態を読み解く(小菅)</p> <p>第05回 症例検討～病理検査データから病態を読み解く(澤田)</p> <p>第06回 症例検討～生理検査データから病態を読み解く(心電図、肺機能検査)(榎本)</p> <p>第07回 症例検討～生理検査データから病態を読み解く(脳波、筋電図、超音波検査)(榎本)</p> <p>第08回 まとめ:病態解析における臨床検査データの重要性(山口)</p>							高崎 鈴木 森 小菅 澤田 榎本 榎本 山口
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 授業態度 10%、学期末試験 90%</p>							
教科書	プリントを配付します。			参考書等	病気がみえる シリーズ(メディックメディア)			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本演習に向けての十分な調査、学習することが、臨床検査とへの関心、興味もいっそう増大するはずである。 ・ 積極的に発表することが、プレゼンテーションに対する自信をもつことになる。 							